



コロナ禍における各楽団の対応・対策

コロナ感染対策 そしてレッスン再開 アンサンブルシーガル横浜 代表 堤 通能

新型コロナ感染拡大を受けて、3月から8月までレッスンを休止しました。その間2回の全員会合を行い、感染対策の検討及び再開時期の見極めをしてきました。

1、基本的感染対策

○体調が悪い時はレッスンを休む。○入退室前に手消毒。マスク常時着用。椅子・の消毒。○換気のため全ての窓・ドアは開放。空調機送風最強に・扇風機利用。○対面・大声会話は避ける。大型楽器搬入搬出は少人数で行う。○会場スペースを最大限利用し各人の間隔1.5mを確保。○感染した場合は速やかに報告する。

2、管楽器飛沫飛散防止対策

当団員は8割が管楽器担当の為飛沫対策に苦心しました。音楽団体の飛沫実験データを参考にしながら、当初は楽器全体をビニール袋で覆う事も考えましたが各パートから演奏しづらいとの意見が相次いだ為次の重点対策としました。○全ての管楽器はベルをビニール袋・布などで覆う。○音楽教室の実例を参考に演奏中の口元マスク着用。フルート群及び金管楽器は必須、クラリネット・サクスは任意とした。○マウスピースだけの吹込み練習は行わない。金管楽器の水抜きは布を当て行う。

3、レッスン再開

この間指揮者の今井先生からもレッスンでの感染の可能性と予防策の提案を頂き大いに参考になりました。そして9月から漸くレッスン再開にこぎ着けました。若干名の一時休会申請がありましたが早期復帰を期待しています。レッスンは従来の毎週1回・1回3時間を、隔週1回・1回2時間に変更してスタートし、レッスン30分毎に10分の換気休憩を入れています。お陰様で今のところ順調に進んでいます。そして1回2時間では物足りないとの声があり、10月後半からは1回3時間に戻しています。不安を抱えながらの活動ですがこれが自信になれば良いと思っています。

つくばSE 代表 松田耕二

つくばSEは3月の定期演奏会が中止になり、休会していました。新型コロナウイルス感染症が消えた訳ではありませんので、感染症対策を厳重にして7月から練習を再開いたしました。感染症対策の基本は原因ウイルスを持ち込まない、持ち出さないです。この基本に則り、練習場所を音楽室から広いホールに替え、入室前に手指のアルコール消毒、非接触型体温計による体温チェック、チェックシートに過去2週間の体調と行動を記録してもらい、ホール内では扉と窓を解放、隣との距離を1mの間隔を空け、管楽器を最前列に配置しました。演奏時以外はマスク着用し、出来るだけ会話を控えるようにしています。退出時にも手指の消毒を行いました。指揮者は牧野英一先生に来ていただき、マイクで指示を出してもらった様にしました。来年3月13日(土)の定期演奏会に向け、感染症を吹き飛ばすぐらいの元気な演奏が出来る様頑張っています。

ラルゴ室内合奏団 団長 戸田武夫

当団の演奏活動は、調布市の施設を利用しています。4月から6月まで、コロナ感染の恐れがあり、練習会場の封鎖が続き、通常練習が停止になりました。

加えて夏の恒例行事の、邦人でドイツのオーケストラで活躍中の方のご指導による『弦楽アンサンブルの為のサマーセミナー』も中止となりました。

この自粛期間中に、当団指導者の松本先生製作の『弦楽器ボーイングの練習方法』や、『両手うちを使ったりズム練習』の動画を取り組みました。

7月から、通常の練習にもどりましたが、数名がまだ練習参加を自粛しております。いよいよ、本年11月には全国大会が行われます。全国のシニアの皆様と、日頃経験出来ない大きな会場で、楽しく一緒に演奏出来る喜びを、分かち合いたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。